

派遣先所属 福島県 商工労働部 次世代産業課
氏 名 佐藤 裕樹 (さとう ゆうき)
派遣期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

「福島イノベーション・コースト構想」は、東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域（福島県東部の太平洋側沿岸エリアで特に災害の影響が大きかった地域）等の産業回復のために、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトです。「ロボット・ドローン」、「廃炉」、「エネルギー・環境・リサイクル」、「航空宇宙」、「医療関連」、「農林水産業」の6つの分野を主要プロジェクトとして、プロジェクトの具体化を進めるとともに、産業集積や人材育成、交流人口の拡大等に努めています。

ロボット・ドローン分野では、「浜通りロボット実証区域」に災害対応や物流・インフラ点検等の分野で活用が期待されるロボットやドローンの研究開発・実証試験を積極的に呼び込むため、ロボットの一大開発実証拠点として「福島ロボットテストフィールド」の整備を進め、2020年3月に全面開所しました。

福島ロボットテストフィールドは、物流やインフラ点検、大規模災害等に対応する陸・海・空のフィールドロボットを対象として、様々な環境を再現することが可能な大規模実証フィールドです。この福島ロボットテストフィールドの管理・運営が私の主な業務です。

所属の次世代産業課は、今年度新設されました。昨年度までは、他部署でそれぞれ所管していたロボット、再生可能エネルギー、航空宇宙分野を統合してできた部署です。各分野を一元化することで、異業種・異分野の連携による新たなイノベーションの創出、各事業間での相乗効果を目指しています。課の構成人数は20人で、うち4人が県外からの派遣職員です（経済産業省、栃木県、長崎県、埼玉県）。

2 被災地の復旧・復興の状況

震災から10年を機に、これまでのスローガン「ふくしまから はじめよう。」から「ひとつ、ひとつ、実現するふくしま」という新たなスローガンが策定され、震災復興も新たなステージへと歩み出し始めました。

福島県庁の所在地である福島市内においては、被災地であることを認識することはほとんどなく、生活に不便を感じることもないので、着実に復興が進んでいることが分かります。他自治体からの派遣職員も以前より少なくなってきました。

しかし、一方で福島ロボットテストフィールドがある南相馬市と浪江町を始めとする浜通り地域は、住民が戻らずに建物が再建されることなく広範囲の防風林が植えられている地域もあるなど、同じ福島県内であっても復興の程度にはかなりの違いがあることを実感します。

福島ロボットテストフィールドの更なる発展を通じて、浜通り地域の復興に引き続き貢献していきたいです。

3 被災地へ派遣となって感じたこと

ロボット産業は今後ますます成長することが期待される分野です。未来志向の成長産業はまさに福島にふさわしいと感じています。

福島イノベーション・コースト構想という国家プロジェクトの代名詞ともいえる福島ロボットテストフィールドの運営に携われているということは私にとっての誇りであり、大きな財産です。

被災地の復興支援を目的として派遣されましたが、勉強させていただくことの方が多くら
いで、この福島県での経験を埼玉県に戻った後も生かしていきます。



福島ロボットテストフィールドの全景写真



福島ロボットテストフィールドの全景図